2月9日，トレドの苗畑に行った。ここはウルグアイ森林局の最大かつ唯一の研究施設であるが，発芽，病虫，材質の3つの試験室があった外は日本の営林局の苗畑と変わらない。優良種子の選別を行っている。ユーカリのポット苗も育てていた。

5. その他

ウルグアイの森林造成の要望は，自国で消費する燃料材，パルプ材，木材等の自給率の向上と，エロージョンによる放牧地の土地劣悪化防止といった見地から出ており，日本のそれとはレベルが異なる。また，昔から外国樹種の導入がなされており，ユーカリやマツは極めて成長が良いが，相手国の要望により的確に対応するためには，有効な植林計画と育種が必要と考えられ，今回の最終調査報告案において計画のアドバイスができたと考える。

当地の会話はスペイン語である。ホテルに帰ってきて自分の部屋のキーをフロントから受け取る時部屋番号を言う必要がある。部屋番号は707号，さて何と言ったら良いか。英語は通じない。会話の本を取り出し，ふってあるカナを見て，大きな声で言ったらキーを出してくれた。ブエノス・ディアス（おはよう），グラシャス（ありがとう），数字とあいさつ，それにレストランでの注文，キエロ（欲しい）など10ぐらいの言葉を必死で覚えた。今回は初めての海外出張であったが，同行の諸氏が皆愉快な，すばらしい方々で，楽しく過ごし，無事帰国できたことを深く感謝しているところである。

（林野庁経営企画課）

新刊紹介

⊙オーストラリアの多目的利用樹木（J.W. Turnbull 編：Multipurpose Australian Trees and Shrubs, Lesser-known Species for Fuelwood and Agroforestry. ACIAR, B5 判，316 pp., 1986，非売品）

ACIAR (Australian Centre for International Agricultural Research) によってまとめられた，燃材利用，アグロフォレストリーにおける利用に適した特徴を持ちながら，今まで林業上あまり知られていなかったオーストラリア産の熱帯性・亜熱帯性樹木についての解説書である。100種にわたるこれら樹木の植物学上・生態学上の特徴，造林及び利用上の特質についての記載が当書の中心を成している。

これら100種の樹木は，①燃材として適している，②燃料のほかに，何らかの生産物あるいは有意義な影響をもたらすことができる，③植栽・管理が容易である，④やせ地，塩類集積土等，悪い立地環境にあっても成長できる，⑤空中窒素を固定する，⑥成長が早い，⑦萌芽能力を持つ，等の基準に照らして選ばれている。オーストラリア大陸は湿潤地域から乾燥地域までの様々な環境を包含しており，半分以上は *Acacia* 属の種であるが，幅広い環境条件を網羅したものとなっている。

開発途上の国々における林業が，地域住民の生活要求と密接な関わりを持つことが望まれている今日の時流の中で，開発途上国で林業に携わる人々にとって，有用な参考書であるといえよう。

（本郷浩二）